

鹿沼の自然・栃木の旅

月報第 8 号

(2012 年 12 月)



(扉)

(表紙)

～牧野富太郎生誕150年～

北光クラブ
自然観察クラブ

『鳥物語・花物語』小学生全集第65巻(昭和4年興文社・文芸春秋社)より

牧野が書いた植物学の基礎についての本には、講談社学術文庫に収録されている『植物知識』がある。元版は昭和24年に郵政省内の通信教育振興会から発行されたものらしい。花と果実の項を設けて、いくつかの植物について解説している。

和田邦男との共著に『植物学講話』がある。昭和7年に南光社の理科教育書の1冊として発行されたものである。「第1編 緒論」で“自然界”と“植物学の範囲”について解説し、「第2編 普通植物の観察」では31章に分けて具体的な植物、また菌類、バクテリア等について解説、「第3編 植物の外部形態」「第4編 植物の内部構造」「第5編 植物の生理及び生態」「第6編 植物の利用」と進んでいく。415頁の重厚な植物学教科書であるが、和田邦男との共著であり、どの部分を牧野が担当したかは判然としない。

『鳥物語・花物語』は鷹司信輔著「鳥物語」と牧野富太郎著「花物語」とを合わせて1冊としたものである。発行所が興文社、文芸春秋社と併記されているのは、それぞれ元版の発行所なのかもしれない。小学生全集全88巻の内の第65巻である。88巻の内には「イソップ物語」「小公女」「ジャングルブック」等、児童文学のようなものから、「日本一周旅行」「極地探検記」「天文の話・鉱物の話」等、大人にも興味深い物が多い。現に「花物語」を見てもすべての漢字にふりがなをふって、子どもに読みやすくなっているが、子どものために簡単に書いてある、という印象は全くない。

- 第1章 花を観る時の注意／第2章 花の姿／第3章 花の記相／
第4章 人生に有用な花／第5章 花の色／第6章 花のにおい／
第7章 花時計／第8章 花のさまぐ

教科書のようなA5判並製本で、教科書の副読本として出版されたものかもしれない。植物学の基礎について詳しく、しかもまとまった形で書いてある点が貴重。おとなでも読み始めるには勇気のいる1冊である。手元にある1冊以外に古書目録で見た覚えはないから、あまり出回っていない本であると思う。

第一 花を観る時の注意

ハナ(花)は草や木の大切な器官で、タネ(種子)を造るところである。そして花の形や色や大きさや匂いなどは、草木の種類によって、誠に千差万別である。殊にウメ サクラ ハナショウブ シャクヤク サツキ アサガオ キクなどの様な培養植物にあつては、特にその花の変形が著しい。吾々は「ああ美しい花だ。」「この花は珍しい」といって、花の美醜を判じ、珍奇を弄ぶことを喜ぶ。けれども花を観るのに、夢でも見ている様にただ漠然と色や形に心を奪われていたのでは、ほんとうに深く花に対する楽しみを味うことは出来ない。真に花を楽しもうとするには、何うしても花に関する正しい知識と理解がなければならない。であるから、花を観る時は細かい所までよく視見極めるよう充分に注意をして、花の本体を正しく知るようにならなければならない。その為には次の様な点を明かにする必要がある。

- 一、花の着く所。
- 二、花に接した葉や茎の状態。
- 三、花の着き方と開き方。
- 四、花の部分的組立て方と其の形状。
- 五、各部分の数と大きさと色と匂い。

そして是等の点を、単に見るばかりでなく、それを写生して絵に、若くは文章に表せば、更に一層はつきり知ることが出来て宜しいのである。

(一) 花の着く所を注意して視ると、タンポポ カタクリ チューリップなどの様に^{てい}葎という特別な茎が出ていて、その頂端に花を着けているのや、エンドウ アサガオの様に葉が茎に着いている元際の上腋から、小さな花茎即ち花梗かこうが出て、それに着いているものもある。又ボタンの様に枝の先端に着くもの、サクラナシの様に短い枝の先に幾つかの花が^{そうせい}簇生するもの、サルスベリ オミナエシの様に茎や枝の先端が、特に細かく分れて小さな枝を出し、その小枝に花を着くものなど、様々であることが知れる。

(二) 花に接した葉や茎の状態には、非常に変形したものと、しないもののが

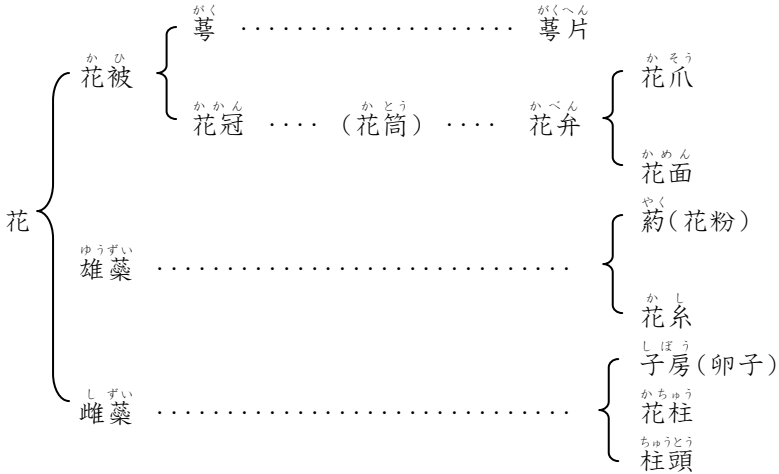
ある。アザミ カヤツリグサなどは変形の目立つもので、マツヨイグサ キキョウなどは其の変形が目立たぬ方である。そして、フジ イネ トウモロコシ オミナエシ等は其の変形の度合いが少し強すぎて、花序^{かじょ}という特別な説明を受けなければ会得が出来にくいものとなっている。

(三) 花の着き方と開き方を知るには、蕾から注意して見なければならない。オキナグサ コウホネの様に一茎一花のものは、着き方に就いては別に問題はないと思われるが、それでも正確な知識を得るのには、地下茎に於ける其の位置を探る必要がある。開き方は、オキナグサにあっては花が半開で下向きとなり、コウホネでは上向きで平開する。又、花が幾つも着くものは、下の方の花が先に咲き次に上の方の花が咲くものもあれば、上の方の花が先に咲いて、下の方の花が次に咲くものもある。即ち、ルリタノオ オカトラノオ等の花は下から咲き、ワレモコウ キンシバイの花は上のものから咲き始めるのである。

(四) 花の部分的組立て方と其の形状とを知ることは誠に大切である。銀杏樹^{ぎんなん}即ちイチチョウは、樹は大きくなり、葉は立派であるが、其の花は甚だ簡単で、種子を造るという目的に向って、率直におき出しである。雌花と雄花とに分れて、雌花には種子となるべき卵子^{らんご}というものを置き出しに着け、雄花には花粉を生ずる葯^{やく}という囊^{ふくろ}の様なものを沢山に着けて居るだけで、花卉などは全く無い。又、大抵の人が知っているダイコン、若くはアブラナの花には、紫色或いは黄色の花弁があり、その外部には緑色の萼片^{がくへん}があり、内部には雄蕊^{ゆうずい}とか雌蕊^{しずい}とかいうものがあって、複雑な構造をなし、形状もそれぞれ特異な様を呈している。が然し、それらの花の諸器官は、ちゃんと一定した位置を取っていて、決して乱れていない。右のダイコンでも、アブラナでも、又カブやカラシナでも、ナズナ タネツケバナでもアラセイトウでも、其の花を採って験^{ため}して見たまえ。其の4枚ある萼片の中、外の列の2枚はその1片が軸に対し、他の1片は其れと向い合って一番向う側に立っている。そして内の列の二枚は必ず外の列の2片の間に位している。又、4枚ある花弁は萼片の間にあるから、皆中軸へ対しては斜め向きになっている。6つある雄蕊の中、長いものが4つで、短いものが2つある。此の4つの中、2つが軸へ対し、他の2つがそれに反対している。そして短い2つは其の両側にあ

る。中央にある子房は其の中を驗して見れば、必ず其の両側に卵子が着いているが、其の一方は必ず軸に対し他は其れに反対している。こんな並び方はどんな枝のものでも皆一様で、決してよい加減な位置になっているものではない。

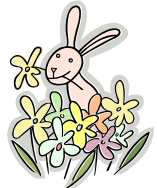
次に、花の諸部分の組立て方、其の他を解り易いように表にして示すことにする。



(五) 花の各部分の数や大きさや色や匂いは精確に知らなければいかぬ。萼と花冠との区別が分明しないヒツジグサや、又チャの花の雄蕊のように多過ぎて数えきれないもの等もあるが、花器の数は種類によって大概一定しているので、花を知るにはそれを調べるのも亦必要なことである。大きさや色や匂いには可なりの変化がある。わけても色と匂いは花のそれぞれの個性に従って異なることもある。

繰り返していうけれども、花を見る時にはどこまでも徹底した視方をせねばいかぬ。精細に視る習慣さえ持てば、どんな花に対しても興味が湧き出て尽きることがない。花弁の赤や紫をちらと見て満足している様では、花に対する真の愛は起らないし、又自然界の大原動力である生命に触れる機縁も得られないであろう。

※ 文中の表記は読みやすさを考慮して適宜直してあります。



ディーゼル列車に乗って、烏山線沿線、秋の小さな旅
～烏山・龍門の滝～太平寺～愛宕台～八雲神社～毘沙門山～烏山城跡～
11月11日（日） 天気・くもり

ほぼ紅葉たけなわの秋の1日、今では珍しくなったディーゼル列車（再来年から順次蓄電池電車に移行予定）に乗って、烏山線沿線に秋を楽しみに行きました。4家族を含む一行15名が参加。小1時間のローカル線の旅を経て、民話の里を訪ねたり、滝見に降りた河原でサケの遡上に出くわしたり、紅葉の山道を歩いて古刹や中世の山城の跡（震災の傷跡が残っていた）を訪ねたり。植物昆虫魚類（+菌類）に加え、史跡のスペシャリストも加わって、充実した道中となりました。最後はこじんまりした烏山の街に降りて、沿道の酒蔵に立ち寄り、おとなたちは酒の試飲、子どもたちも日本酒用のおいしい水を堪能して、帰路に着きました。（北光クラブニュースNo.120掲載）

※ 参加者

佐々木伸二・千洋・真澄・茂・理恵、茂呂さん親子3名、
小島美穂、山口龍治、石崎隆史・裕子、阿部瑞穂・良司・みゆき（計15名）

※ 見た鳥

ヤマガラ、コゲラ、ヒヨドリ、
ジョウビタキ、チュウサギ、
ゴイサギ？アオサギ？、モズ、ツグミ、
トビ、ハシブトガラス

あの鳥はゴイサギか？アオサギか？
魚の群れ…遡上してきたサケだ！
龍門の滝は、？と！がいっぱい

※ いた虫など

ヒメヤママユガ、サトクダマキモドキ、
アマガエル

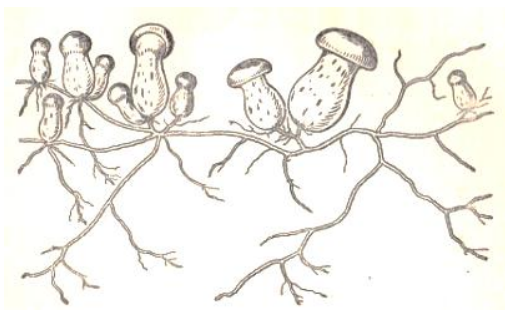
※ 見た花

ベニバナボロギク、コウヤボウキ、
ダイコンソウ、ヤクシソウ、チャノキ



✿ 見つけたキノコ

キヒラタケ、ワヒダタケ、ツヤウチワタケ、ヒトヨタケ、ツチスギタケ、ナラタケ（下図参照）



ならたけの子実体と根状菌糸束



フユノハナワラビ

✿ 注目！

フユノハナワラビ（右写真）、

カヤ(推定樹齢 200 年、町指定天然記念物、栃木名木 100 選)

✿ 参加者のみなさんからいただいたおたより

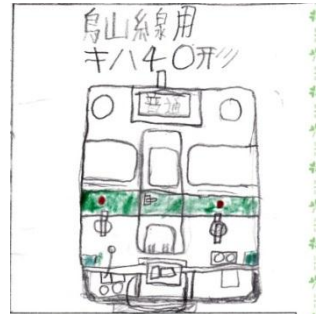
烏山線にのっておどろいたこと

ぼくは烏山線にのるのを1しゅうかんもたのしみにしていました。とうじつのもってみておどろいたことが4つあります。

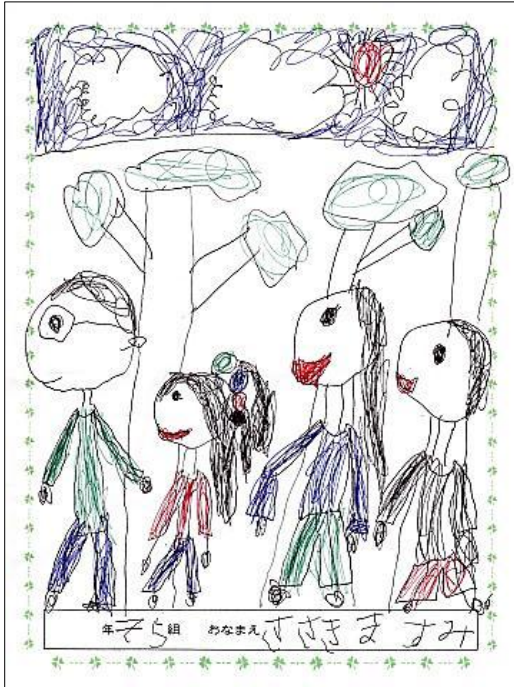
- ① とびらをドアのよこにあるボタンであけしめすること。
- ② しゃりょうの中央にしょうかきがあること。
- ③ せいりけんのきかいとうんちんばこがあること。
- ④ 駅がホームとまちあいしつしかないこと。駅を見て「ちかくにこんな小さな駅があるんだ」とおどろきました。

またのりたいです。

（佐々木伸二・北小4年）



これもキハ40形
(ディーゼルカー)



(佐々木真澄・年少)



今日のチャレンジスクールでたきというところまでいきました。まず、たきをみにいきました。そこにはチュウサギとアオサギがいました。すごく下までいくとサギが大きく見えました。上にもどっておにいちゃんのそうがんきょうをかしてもらったら、とおいのにちかくまでよく見えました。何分かすると2ひきのサギがとんでいってしまいました。またみにいきたいです。

(佐々木千洋・北小2年)

(左の絵も)



JR鳥山線七福神

- 宝積寺駅…七福神集合
- 下野花岡駅…寿老人
- 仁井田駅…布袋尊
- 鴻野山駅…福祿寿
- 大金駅…大黒天
- 小埜駅…恵比寿
- 滝駅…弁財天
- 鳥山駅…毘沙門天



烏山方面観察会の思い出

JR烏山線・滝駅で下車。太平寺で天然記念物に指定されているカヤの木を見ました。じつのところ天然記念物に指定されていませんが、もっと大きいカヤの木をいくつか見ているので少々がっかり。でも、地域的に見て、これ程のものは貴重なのでしょう。

次は龍門の滝です。滝の近くでヒメヤママユのメスを見ました。成虫は灯火に集まりますが、メスは少なく、ようやくオス・メスが揃いました。川にはサケがいてビックリです。下流に合流点があり、別の方へ遡上するそうですが、龍門の滝の方へ上がってくるものもいるのだそうです。

小さい山を越え市内を歩き、最終目的地の烏山城跡へ。きつい階段を登り、やっと頂上に。お昼ごはんのあと、その辺の散策です。佐々木さんから烏山城跡の説明があり、大喜びしました。そして、発掘調査が行われていると聞いた直後、その現場がビニールシートをかぶせていないのには目を疑いました。関東の黒土層はやわらかく、おまけに雨水を含んでいたので、入ればぬかるみ状態になり、関係者でも土が乾くまで中に入れられない状態でした。

佐々木さんは関西の遺跡発掘はむづかしいと言っておられました。私は長年発掘調査のアルバイトをしていたからよく分かります。関西では遺跡の上に何層もの土が堆積していて、土の色が微妙です。土の色のわずかな違いをよく見て慎重に掘らないと、穴だらけでデコボコになってしまいます(笑い)。数年前、奈良の都平城京跡では、平城遷都(せんとは都を別の所へ移すこと)1,300年祭が行われましたから、知っている人が多いと思います。平城京跡では1000年でおよそ1メートルの土砂が堆積しています。考古学のこともあったので、関西の事情を紹介しました。

この日はカエデヤドウダンツツジの真っ赤な紅葉が見られ、この時期ならではの風物も堪能できました。

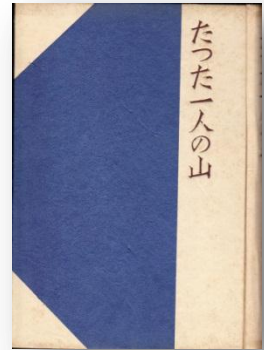
当日見た昆虫で死体でしたが、センチコガネとクスサンを追加します。

(山口龍治)



初冬の日だまりハイキング
～益子・三登谷山～雨巻山～足尾山～

冬の山登りには、華やかさが微塵もない。だから、これは私一人のことだが、何處か冬の山へ行こうと考え付いてから、愈々実行に移すまでには、随分の努力が要る。そして、一切の準備が整って、いざ出発となっても、心は重いのである。(中略)山へ行こうと思いつくのは、自分にとっては此の上もなく楽しいことなのだが、さてその愉しさを実現するための、努力をする段になると、段々と心が重くなって来る。これは、山登りが一つの難しい仕事だということが、心に深く沁み込んでいるせいであろう。



浦松佐美太郎著「たった一人の山」(昭和16年6月30日、文藝春秋社発行)

雨巻山は八溝山から筑波山に続く八溝山地の中央部、鷓足山地の最高峰です。「新ハイキング」170号、佐藤節氏の書かれた「仏頂山から雨巻山へ」には「その昔、真壁伝正寺8代の名僧、物堂応禅師が、この頂に篋っての3日2晩の雨乞いを、八大竜王感應あって、雨をもたらされ、里人は為に旱魃をまぬかれたと伝えられている伝説の山です。」とあります。朝の冷え込みが厳しくなって「いざ出発となっても、心は重い」のですが、葉の落ちた明るい尾根路の日だまりハイキングに出かけてみませんか。

日 時：12月9日(日) AM6：00 北小西門集合

行 程：鹿沼——益子——大川戸——三登谷山——雨巻山——御嶽山
——足尾山——大川戸——益子——鹿沼

服 装：防寒着(セーター、ジャンパー、タイツ)、帽子、手袋、
靴下(2枚重ね)、軽登山靴または運動靴

持ち物：リュックサック、ポット、レジャーシート、雨具、お弁当、おやつ、
お手ふき、タオル、ちり紙、筆記用具、レジ袋

あると便利な物：双眼鏡、ルーペ、カメラ、図鑑、ガイドブック、
1/25,000 地形図は「羽黒」「中飯」

費用：おとな 500 円、子ども 250 円

今年度初参加の方は年間保険料 800 円

ガイドマップ：益子町発行のガイドマップがインターネットで入手できます。
「雨巻山（あままきさん）」で検索してください。（\）

寄り道：地藏院、西明寺、高館城跡等（時間があれば）

問合せ：自然観察クラブ 阿部（090-1884-3774）



☺ 会員からのおたより ☺

日光ハイキングでは、お世話になりました。

初参加でありましたが、お天気にも恵まれ、皆さんと一緒にすばらしい景色の中、楽しいハイキングが出来ました。

（中略）

山歩きは、トイレがやはり心配で、お昼ごはんを少し多めに食べてしまい、軽く腹痛がおきてしまったので、次回は食事に少し気をつけようと思いました。

休憩も沢山あり、体力的には全く問題なく、次の日も痛い所などなくて、ほっとしました。

また機会がありましたら、色々と参加させていただきたく思います。

（茂呂高子・北小5年保護者）

※ 皆様の投稿をお待ちしています。

今年1年お世話になりました。
また来年も子どもたちと一緒に
自然観察や歴史探訪
その他を楽しみましょう！
どうぞよいお年を…



鹿沼の自然・栃木の旅 月報第8号

2012年12月1日発行

北光・自然観察クラブ

鹿沼市上田町1923

発行人 阿部 良司

年会費 1200円

ホームページでもご覧になれます→

クリーニングハウスあべ

